

内閣官房 まち・ひと・しごと地方創生本部事務局
広島大学COC中山間地域島しょ部対策 取組説明資料

**地方創生の原動力、持続可能な地域志向型教育
～地域・大学連携の今とこれから～**

平成27年9月9日

広島大学COC 中山間地域・島しょ部領域 山尾政博、細野賢治、大泉賢吾、天野通子





説明の内容

1. 中山間地域・島しょ部領域の活動がめざすもの

教授 山尾政博

2. 地域志向型教育の出発点

—体験学習の成果と評価—

「地(知)の拠点」特任助教 天野通子

3. 体験学習から地域志向型教育への発展

—連携特別講義、インターンシップ、特別演習—

准教授 細野賢治

4. 大学が地域と連携する意義、地域が大学と連携する意義

コーディネーター 大泉賢吾

5. まとめ、今後の課題



広島大学のCOC

- 事業名＝「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」事業
- 3つの柱
 - ①中山間地域・島しょ部対策(生物生産学部)*
 - ②障がい者支援(教育学部)
 - ③ひろしま平和発信(医学部・歯学部・薬学部)
- 内容:めざすもの
 - 「地域や国、年齢、性、人種等の違いや障がいの有無を超えて、いつでも、どこでも個々人が幸福な人生を享受できる社会の実現」をめざす。
 - 地域を学生教育のフィールドとして位置づけ、地域課題の解決につながる教育プログラムの推進

*申請計画書では、「条件不利地域対策」となっていたが、実施過程で連携地域と話しあい変更。



1. 中山間地域・島しょ部領域の活動がめざすもの

条件不利化する地域社会の現状

条件不利地域が
7割を超える

広島県は、瀬戸内海島しょ部や中山間地域の過疎化・高齢化が進む地域で、活力低下という問題に直面している



県内には、積極的にこの課題に対応し、条件不利地域対策に取り組む、地方創生のための努力をしている地域がある

■ 人口及び面積

区分	人口 (A)	面積 (B)	人口密度 (A/B)
広島県全域	2,860,750人	8,480km ²	337.4人/km ²
うち中山間地域 (構成比)	388,670人 (13.6%)	6,062km ² (71.5%)	64.1人/km ²
うち他の地域 (構成比)	2,472,080人 (86.4%)	2,418km ² (28.5%)	1,022.4人/km ²

※ 人口はH22国勢調査、面積は2010年世界農林業センサスによる。ただし、一部離島の面積はH22国勢調査による。



地域に貢献できる人材育成の拠点形成

- 条件不利下にある地域社会の活性化に向けて活躍できる人材育成の拠点形成をはかる

➡ 1) 地域社会の活力低下という問題に対応し、条件不利地域対策に積極的に取り組み、地方創生のための努力をしている地域と連携

➡ 2) 食料生産・資源・環境・生態等を対象にした生物生産学部は、条件不利化していく農業・水産業、食料産業を基盤とした社会の活性化に向けて活躍できる人材を育成

成果1: 地域志向型教育の実践

- 生物生産学部(農学・水産学含む)における地域志向型教育が、段階的に実践される

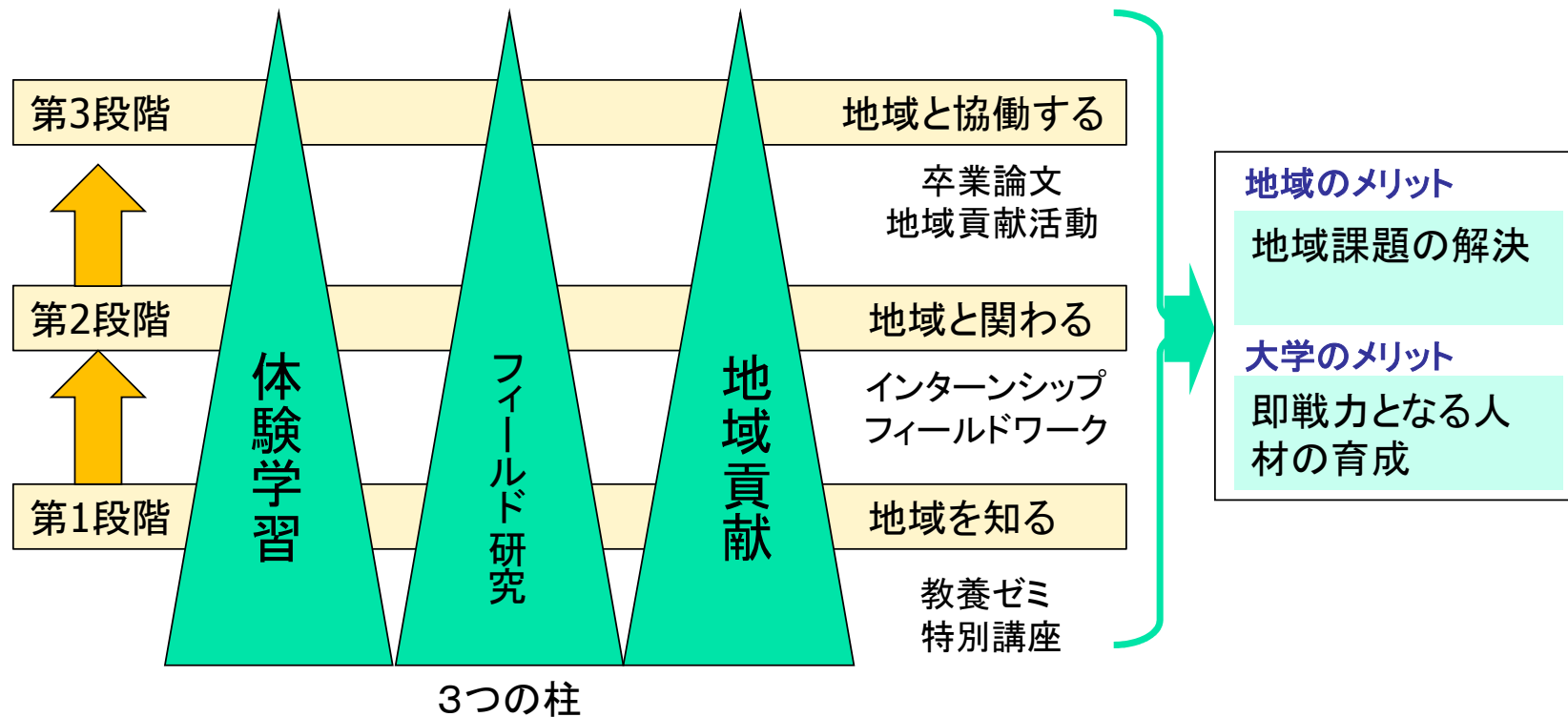


図 広島大学COC中山間地域・島しょ部対策領域の取組のフレーム

成果2:カリキュラム内容の充実

■ 教養教育、専門教育に位置づく地域志向科目の充実が図られる

1) 「地域を知る」

体験学習: 教養ゼミ(1年生を対象)で実施

連携特別講座: 地域で活躍する人物から地域づくり、6次産業化について話を聞き、考える

2) 「地域と関わる」

インターンシップ: 農林漁業や6次産業の現場で就業体験

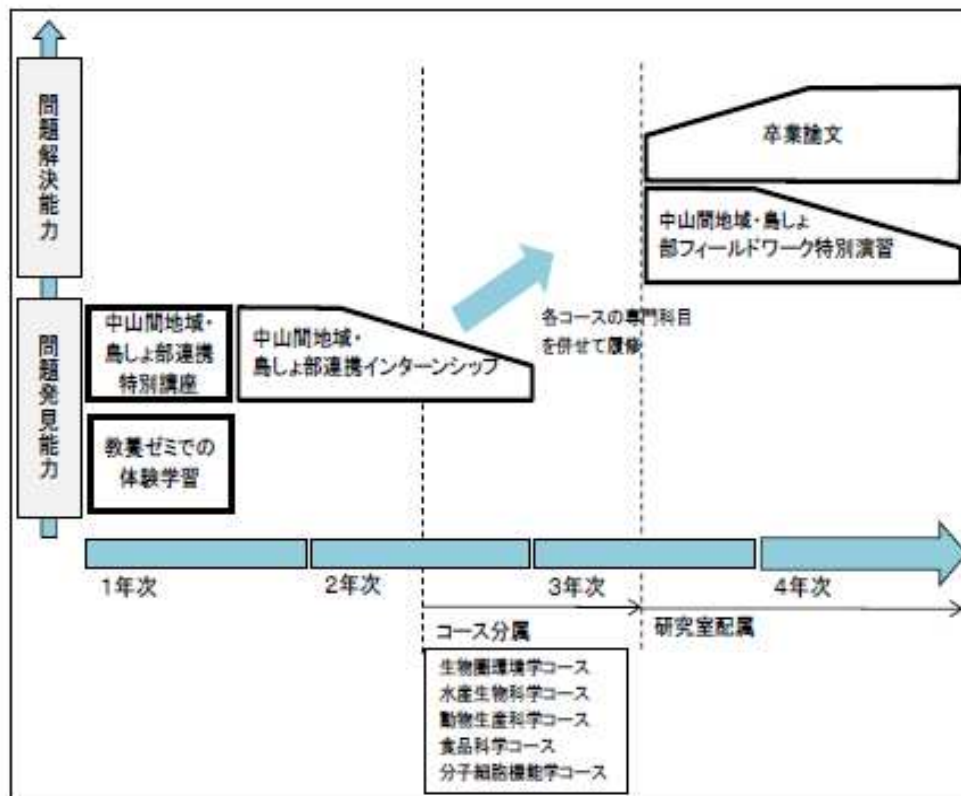
3) 「地域と協働する」

地域調査、レポート: 学生の問題意識によるフィールドワーク

卒業研究: 地域課題解決、地方創生に向けた調査研究をテーマ

生物生産学部の学部教育との連携について

生物生産学部では、広島県内の7市町・9地域で先進的取り組みをおこなう地域社会・地方自治体等と連携し、体験学習、連携特別講座、インターンシップを設置しています。大学と地域が課題を共有し、地域を志向する学生の養成と中山間地域・島しょ部の現場で起こる問題解決にむけて取り組みます。



ステップ1 「地域を知る」

- ・1年生全員が教養ゼミで体験学習に参加（1年次前期・必須科目）
- ・連携特別講座は、地域で活躍する人物から地域づくりや6次産業化について直接話を聞く（1年次前期以降・選択科目）

ステップ2 「地域と関わる」

- ・連携インターンシップは、地域の農林漁業や6次産業の現場で就業体験をおこなう（1年次後期以降・選択科目）

ステップ3 「地域と協働する」

- ・フィールドワーク特別演習は、学生の問題意識の下で聞き取り調査を行い、レポートで報告（3年次後期以降・選択科目）
- ・卒業論文は、各研究室に所属して地域課題解決と地方創生にむけた研究に取組む（3年次後期以降・必須科目）

図 生物生産学部の学部教育と「地(知)の拠点」主要プログラム

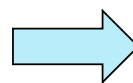
成果3: 地域志向型教育のシステム化、マニュアル化

- 連携地域の支援を得ながら、地域志向型科目のカリキュラムを維持するためのシステム開発
 - 1) 体験学習、インターンシップ、フィールド演習など、受入地域との協働が必要なカリキュラムを、いかに効率的に維持・運営していくか
 - 2) 他分野、他大学、他地域でも応用できる地域志向型教育科目のマニュアル化

連携地域の活性化

- 大学が実施する地域志向型教育の実践により、大学生、若者を地域に受け入れる農漁村の基盤作りが進む
 - 1) 社会文化的インセンティブ: 体験学習、インターンシップ等により、賑わいを取り戻す過疎社会。放棄農漁業資源の見直しと有効活用。生きがいの創出、etc.
 - 2) 経済的インセンティブ: 体験型ツーリズムの発展、大学資源を活用した新商品、ビジネスモデルの開発、etc.

連携地域は、大学に対して、中長期にわたる交流、連携、協働関係を望む



学生への動機づけは息の長いものに